

# 言語感覚の豊かな児童の育成 —「量」「質」「活用」に着目した継続的な語彙指導を通して—

【教科・領域】国語 小学校 第3学年

令和元年度 前橋特別研修研究員 前橋市立勝山小学校 小菅 瑞穂

## 【児童の実態】

- 自分の気持ちを言葉で表すのが苦手。
- 知っている言葉が少ない



## 【教師の課題及び願い】

- 言語感覚を高める指導が不十分。
- 言葉から何かを感じ、感じたことを言葉にできるようにしてもらいたい。

様子や行動、気持ちや性格を表す言葉など、出会った言葉を集めました。



自分辞書

**手立て1** 「全領域」  
言葉集めを行い、  
**語彙の量**を増やす

つぶやきました  
声も重なりました  
説明しました…



## 実践例①

「言いました」の仲間になる言葉を集めよう。

## 手立て2

「読むこと」  
言葉を根拠に想像し、**語彙の質**を高める

## 実践例②

「つぶやきました」「声も重なりました」は登場人物のどんな気持ちを表しているか考えよう。



どうして「言いました」じゃないのかな。

ひとり言みたいに小さな声かな。さみしい気持ちかなのかな。

声も重なるだから、家族の気持ちがそろっているのかな。

## 手立て3

「書くこと」  
「話すこと・聞くこと」  
相手・目的・意図・場面の状況などに  
応じたふさわしい**言葉を選び活用**する

## 実践例③

登場人物の気持ちが分かるように会話文とその後続く言葉を工夫して書こう。



主人公のドキドキした気持ちを表せるように、「言いました」よりも「さげびました」にしよう。

## 【成果】

- 言語感覚を豊かにする一助となった。
- ・児童が知っている言葉の数が増えた。
- ・言葉から、自分の考えの根拠を見付けられるようになった。
- ・適切な言葉を選んで表現することができるようになった。

## 【課題】

単元を見通して、着目したい言葉を選び、言語活動を設定していく必要がある。